

# マップで引き継ぎ

## ●民生委員、一斉改選の今がチャンス

### ■一斉改選でまた「欠員」の話が…

今年が民生委員の改選の年である。こういう時期になると話題になるのが、欠員が何人出るかだ。民生委員の仕事はますます過重になっている。ある民生委員がつくづく言っていた。「昔は楽だったねえ」。高齢者の数も少なかったが、今はそれこそ地域に溢れるほどになっている。しかも国は要支援や要介護の人を地域に戻している。手当はこの負担にとっても見合わない。これでは「やっつけられない」と思うのも無理はない。



### ■滑川市が「セミナー付き引き継ぎ」

その引継ぎについても、関係機関からの話と要援護者名簿を渡されておしまい、というやり方では、ますますやる気が起きない。

2年前に横浜市神奈川区の社会福祉協議会が支え合いマップを使って引き継ぎ式（上の写真）を実施したが、今年11月に富山県滑川市の社会福祉協議会が引き継ぎ式をマップで行う。マップで引き継ぎをすると、どんな利点があるのか。

私共はこれまでも、支え合いマップは民生委員の引き継ぎに活用できると提案してきた。マップでの引き継ぎが実現しない、意外な理由も見聞きした。ホンネのところでは、「引き継ぎ」をしたくない民生委員も少なくないというのだ。「自分が苦労して発掘した資源を、新人にあげるわけにはいかない。資源（協力者）がほしいのであれば、自分で努力して見つけなさい」という心情があるのだと。

しかし、マップでの引き継ぎが行われれば、前者のベテラン民生委員のマップをそのままいただける。そこからスタートできるのだから、新人民生委員は大いに助かるのではないか。

### ■要援護者と支援者の関わり合いの線が引いてあるマップ

横浜市神奈川区で引き継ぎに使われたのは、データ化された支え合いマップである。要援護者とその人に関わる人からの線が走っている。今までは民生委員はただ個人情報だけを渡されるだけだったが、こちらではその要援護者と関わっている人がセットで、しかも住宅地図上で示されている。相互の位置関係も明白だ。それ以外にも引き継いだほうがいい情報もいろいろ渡される。これらの情報を持って旧民生委員が新民生委員に相対するわけだ。

民生委員の活動にとっての「財産」とは、個人情報だけでなく、その人と周囲の人たちとの関わ

り合いの情報なのだ。民生委員は要援護者には自らが関わるものと決めてかかってしまうが、マップの財産を引き継いだということは、要援護者にまずは周囲の人たちが関わるのであり、民生委員はそこから一步引くということの意味している。私どもはフォワードからミッドフィルダーに下がるという言い方をしている。

もし従来通り、要援護者には民生委員が関わるものだとすれば、そんな「財産」は要らない。要援護者名簿を渡されればそれでいいのだ。

## ■福祉のあり方も理解していただくセミナー形式の引継ぎ

富山県滑川市社会福祉協議会も11月に引き継ぎ式を実施するが、こちらはセミナー（研修会）方式にした。というのは、今の民生委員の発想では、あまり引き継ぐことがなくなってしまう恐れがあると社会福祉協議会は考えたのだ。

民生委員とマップづくりをすると、「この人は大丈夫」という言い方をよくする。つまりその要援護者の安全が確保されればそれでいいと言うのだ。しかし福祉のめざすものは変わってきた。厚生労働省は地域包括ケアシステムの目標について、「どんなに重い要介護でも、住み慣れた地域で自分らしく生きていけるように支援しなさい」と言っている。「私から畑を取ったら、何も残らない。要介護になっても、畑に連れて行ってほしい」と言えば、その願いをかなえてあげるのが、今の福祉なのだ。

また、自分たちは要援護者を施設や介護サービスにつなげるのが仕事だと思っている人も少なくない。対象者を施設に入所させたり、息子に引き取らせてしまえば「一件落着」と考える。こうして「懸案」はなくなり、次の民生委員に引き継ぐものがなくなってくるのだ。

民生委員とマップづくりをしていて、施設に入所した人が見つかった。私が「この人もたまには里帰りしたいんじゃないかな」とつぶやいたら、その民生委員は後で施設を訪問して、本人の意思を確認した。すると、やっぱり家に帰りたいと言う。といっても、もう彼女の家は残っていない。

そこで民生委員が考えたのが、近くの一入暮らしの女性宅に里帰りさせるという案だった。下半身マヒの重度障害者の家であるが、事情を話したら大歓迎と言ってくれた。

改めて今の福祉は何をすべきなのかも、引継ぎの際に再確認していただかないといけない。そこで「研修付き引き継ぎ式」と相成ったわけである。

## ■神奈川区の引き継ぎの内容

横浜市神奈川区の引き継ぎ式では以下のような引き継ぎが行われた。

①自治会内の担当エリアを説明。

旧民生委員が自治会の地図を使い、担当エリアを説明。

②担当エリアを約50世帯ごとに分けた住民支え合いマップのブロックを説明。担当エリアを6ブロックに分けた経緯を説明。

③6つのブロックごとにマップを活用した引継ぎ。マップ内の矢印をデジタル化したマップと情

報を集めて一覧にしたもの（区社協作成）を元に、1ブロックごとに引継ぎ。

マップ内の関係線や情報を丁寧に説明。時折、話の中で最新情報が入ることがあったので、その場で情報更新も行った。

マップの中でも特に気になる人については、重点的に引き継ぎ。マンションにいる障害者。認知症のある高齢者。要介護高齢者と身体障害者がいる世帯。高齢のみ世帯で、どちらかが病弱。自立度が低下しつつある高齢者や出歩くのを見かけることが少なくなった高齢者など。